

3) *Entodon Sullivantii* var. *versicolor* (Besch.) U. Miz. の組合せの出典は本紙の 36 巻 134 頁 (1961) である。Wijk & Margadant 両氏が *Taxon* の第 14 巻 (1965) 及び *Index Muscorum* の第 5 巻に載せられた出典は筆者の発表を見落した為である。

□室井 緯：竹と庭 22×16, 口絵 6 頁, 写真と線図約 220, 本文 263 頁, 20, 12, 1969, 農業図書 K. K. 1,200 円。竹と笹を友とし, その研究に没頭している室井氏が, うんちくを傾け, 園芸図書シリーズの一巻として, 竹趣味を鼓吹する目的で筆をとったもので, その目的を達するに足る内容をもっている。また「庭の竹と笹の見分け方と特徴」という項を設けて, 属の検索表を用意してあるので, 著者の分類の見解の一端を示していると同時に, 見ごとな多数の写真と挿図を通して竹の美的観賞もできるうえ, 栽培, 管理に関する項は, その方面に志す人々には参考書として役立つであろう。(久内清孝)

□シエツフ著 金光不二夫訳：人類の起原 pp. 385+14 (1970, 2 月) 法政大学出版局。980 円。この本は霊長類の初期の化石属からはじめて, 人類の起原までを細かに述べたものだが, こゝに紹介するのはそのためではない。挿入されている全世界の古地図のためである。というのは白亜紀末—古第三紀初期の図からはじめて ヴェルム氷期のそれまで, 実に 11 葉に及ぶ古地図があり, それも珍らしく古植生図であるからである。漸次に変化して行く植生の動きは著者の見解が強く反映していると思われるが, レムリアやアトランティスも描かれていて, 我々植物関係の者にも興味が湧くので紹介した次第である。

なお注意 2 件。第 9 図は始新世末から漸初世初古地図と訂正すべき旨, 金光氏から教示を得た。また巻末の文献は 1969. 11 月の初版第 1 刷にはついていないから念の為。(前川文夫)

□第四紀文総合研究会編：日本の第四系 pp. 435 地学団体研究会 (東京都豊島区南池袋 2-32-2) 発行 (1969. 7 月) Quaternary System of Japan in Japanese with English résumé to each chapter, published by the Association for the Geological Collaboration in Japan (Minami-Ikebukuro, Tokyo.) (1969)。第四紀は我々の生活の場であるが, また多くの植物が分布し進化した場でもある。こゝ十数年の間の第四紀の研究はめざましいもので, 我々はその成果をこの一冊で知ることができるのはまことに有難いことである。本書では北海道から琉球までを, 多くは夫々の地区で結ばれた研究グループが分担執筆をしており, 多数の地図, 古地図, 対比表を挿入して, 多くは鮮新統から以後今日までの地形地質を述べてあり, 各地の植物化石にも論及している。フロラを論ずるにしても, 考究するにしても, これを参考にしないことには片手落ちというものであろう。予約配布だが, 残本があるので, 3,000 円で頒かつということである。(前川文夫)